

音楽科 学習指導案

授業日時 令和7年〇月〇日 (〇)

指導者 T1〇〇〇〇 T2〇〇〇〇

1 題材名 「2つのせんりつをひびきあわせて『エーデルワイス』のえんそうをしよう」

2 児童の実態

本学習グループは、小学部3年生男子4名、女子1名と小学部4年生男子3名、女子1名の計9人で編成されている。それぞれの児童の本題材に関する実態は次のとおりである。

A 児	3年生（知的障がい、自閉スペクトラム症） 【アセスメント】S-M 社会生活能力検査〈社会生活年齢〉〇歳〇か月
	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボードの演奏で暗譜し、一定のリズムで演奏することができる。 ・決められた台詞を言ったり、簡単な単語で意思表示をしたりすることができる。
B 児	3年生（自閉スペクトラム症） 【アセスメント】S-M 社会生活能力検査〈社会生活年齢〉〇歳〇か月
	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボードの演奏で、楽譜の指さしに合わせて、該当する音階の鍵盤を弾くことができる。 ・抑揚を付けて話したり、自発的に質問したりすることができる。
C 児	4年生（ADHD、自閉スペクトラム症） 【アセスメント】S-M 社会生活能力検査〈社会生活年齢〉〇歳〇か月
	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボードの演奏で、5指を使って鍵盤を弾くことができる。 ・質問したことに応じたり、見聞きしたことや気持ちを他者に伝えたりすることができる。
D 児	3年生（知的障がい、自閉スペクトラム症） 【アセスメント】S-M 社会生活能力検査〈社会生活年齢〉〇歳〇か月
	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボードの演奏で、楽譜を見ながら、該当する音階の鍵盤を弾くことができる。 ・「〇〇に行ってきます」「〇〇できました」と自発的に報告することができる。
E 児	3年生（知的障がい、自閉スペクトラム症） 【アセスメント】S-M 社会生活能力検査〈社会生活年齢〉〇歳〇か月
	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボードの演奏で、言葉かけと鍵盤の指さしに合わせて、該当する音階の鍵盤を弾くことができる。 ・平仮名や片仮名を単語で読んだり、友達が話すことを真似して言ったりすることができる。
F 児	4年生（知的障がい、自閉スペクトラム症） 【アセスメント】S-M 社会生活能力検査〈社会生活年齢〉〇歳〇か月
	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボードの演奏で、楽譜を見ながら、該当する音階の鍵盤を五指で弾くことができる。 ・状況に応じて、「びっくりした」「こわいなあ」「人が多いよ」などと自分の言葉で伝えることができる。
G 児	3年生（知的障がい） 【アセスメント】S-M 社会生活能力検査〈社会生活年齢〉〇歳〇か月
	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボードの演奏で、言葉かけと鍵盤の指さしに合わせて、該当する音階の鍵盤を弾くことができる。 ・自分の言葉で意思表示をしたり、友達と自発的に会話をしたりすることができる。
H 児	4年生（知的障がい、自閉スペクトラム症） 【アセスメント】S-M 社会生活能力検査〈社会生活年齢〉〇歳〇か月
	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボードの演奏で、楽譜を見ながら、リズムに合わせて演奏することができる。 ・「できました」「〇〇行ってきます」などと意思表示をすることができる。

I 児	4年生（知的障がい、ダウン症）
	【アセスメント】S-M 社会生活能力検査（社会生活年齢）○歳○か月
	<ul style="list-style-type: none"> ・キーボードの演奏で、楽譜の指さしに合わせて、該当する音階の鍵盤を弾くことができる。 ・自分から話しかけたり、出来事や自分の気持ちを簡単な単語で伝えたりすることができる。

3 題材設定の理由

(1) 児童観

本学習グループの児童は、3年生5名と4年生4名の計9名で編成されている。課題や指示に対しては、視覚的な提示やモデリング及び同じ課題の繰り返しにより、見通しをもち主体的に活動することができる。コミュニケーション面では、質問に対し自らの言葉で答えて会話をすることができる児童、単語で意思表示をする児童、選択肢の中から思いを伝える児童がいる。多様な実態の中でも、1学期に比べ、積極的に友達と一緒に歌唱や身体表現をすることに取り組んだり、互いの名前を呼び合ったりするなど、友達とより深く関わろうとする場面が少しずつ見られるようになった。

音楽の授業については、興味をもって取り組むことができる児童が多く、これまで、歌唱活動、身体表現、楽器演奏、鑑賞の4つの柱で学習活動を行ってきた。特に楽器演奏については、4月からキーボードを使って合奏を行い、楽譜を見ながら弾くことを目標に取り組んでいる。はじめてのキーボードに自信をもって弾くことが難しい児童もいたが、友達とともに繰り返し練習することで、意欲的に取り組むことができるようになり、友達の演奏にも少しずつ関心をもつようになってきた。キーボード演奏の実態としては、音名の言葉かけや鍵盤の指さしで弾くことができる児童、提示したリズムと同じように一人で演奏することができる児童、合奏になると他者と同じテンポやリズムに合わせる事が難しい児童など実態は様々である。そこで、お互いの関わりが深まる中で、一つの曲を息を合わせて合奏することにより、友達の演奏に関心をもつとともに、器楽をとおして友達とともに音楽表現することの喜びを感じたり、一体感をもつことで互いのコミュニケーションを深め、信頼関係を育んだりしてほしいと考える。

(2) 題材観

本題材では、キーボードによる楽器演奏を継続的に行い、集団での合奏に取り組んできたことから、その中で様々な旋律の重なり方を経験するために、2つの異なるメロディーを同じリズムの中で重ね合ったり、2つの異なるリズムの中で旋律が重なり合ったりする楽曲を用いた学習内容を設定した。旋律の重なりについては、2つのパートが同じメロディーで交互にかけ合いながら弾く部分や、同じメロディーを同時に弾く部分がある『聖者の行進』の合奏に取り組んできた。音のかけ合いや同じ音を集団で演奏したことで、一緒に音を奏でることの達成感を味わうことや、友達の演奏する音を聴く力が少しずつ付いてきた。一方で、2つの異なるメロディーを同時に弾いて合奏した経験は少なく、同じメロディーを同じリズムで演奏するよりも難易度が上がると考える。様々な旋律の重なり方を合奏の中で取り入れることは、特別支援学校学習指導要領音楽科の2段階の目標である(1)「曲名や曲想と簡単な音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする」ことに関連し、器楽活動の内容にある、2段階(ウ)㊦「教師や友達と一緒に演奏する技能」や3段階(ウ)㊧「教師や友達の楽器の音を聴いて演奏する技能」にもつながる。このことを踏まえ、様々なリズムで旋律が重なる合奏をとおして、他の旋律にも注目し、自分の音と友達の演奏する音の響き合いを感じながら音を奏でることができるようになってほしいと考える。

そのために、ここでは、『エーデルワイス』（リチャード・ロジャース作曲）を合奏曲として用いる。『エーデルワイス』は、ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」の中で使われている楽曲で四分の三拍子のゆったりとした流れの中にある跳躍進行が旋律の特徴である。曲の後半は旋律の動きやリズムが変化するが、全体的に同じフレーズの繰り返しが多くあり、同じリズムの中でも旋律を重ねやすいと考える。また、ミ・ファ・ソ・ラ・シ・ド・レの7音から構成され、二部の音の重なり的美しさを感じ取りやすい教材であることから、主旋律と副旋律のそれぞれの音の重なりを聴きながら、曲の優雅さを感じて合奏することができるようになってほしいと考える。

(3) 指導観

本題材では、合奏という集団での楽器演奏を経験してきたことから、キーボードで『エーデルワイス』の主な旋律と副次的な旋律を同じリズムで演奏することによって、互いの音が重なって響き合うことを感じ取ることができるようにする。はじめに、四分の三拍子のゆったりとしたリズムや同じリズムで音が重なっていることに気付くことができるよう、四分の四拍子でかけ合いが中心の『聖者の行進』の楽曲と比較しながら『エーデルワイス』の鑑賞を行う。また、キーボード演奏に移る前には、毎時間教師によるピアノでの演奏を聴き、演奏する楽曲についての見通しをもつことや親しみを深めることができるようにする。キーボード演奏では、実態に合わせて、音名シールを鍵盤に貼ることや、鍵盤の指さし、音名の言葉かけ、楽譜の指さしを行い、一人一人にあった支援を段階的に組み合わせる。パート分けについては、主旋律においては、1オクターブ高い「ド・レ」があり、運指の幅が広がって難易度が上がることから、キーボード演奏を得意とする児童を振り分けた。一方で、副旋律においては、ミ・ファ・ソを中心としたメロディーが多いことからキーボードに苦手さを感じている児童を振り分けた。加えて、今回の合奏は、同じリズムでの旋律の重なりが中心となることから、一定のリズムで弾くことができるよう、拍を刻んだり、伴奏をしたりしながら演奏を行う。

本時では、全員で合奏する発表会に向けての前段階として、グループでの発表会を行う。はじめに、パートごとに練習を行い、自分のパートのメロディーを弾くことができるようにする。パートごとの練習時間には、個人の課題に対して言葉かけや指さしの支援など個別に対応し、キーボードの技能向上につなげる。発表会では、各グループの演奏の様子を動画に撮り、鑑賞したり、それを基に振り返りをしたりする。演奏後はすぐに鑑賞と振り返りに移り、目標の振り返りを行うことで、即時フィードバックができ、児童がキーボード演奏における目標を達成したかどうかを実感しやすいと考える。また、グループによる演奏を鑑賞することで、友達の演奏している様子や演奏している音に注目しやすくなることできる。最後に、よいところ

を発表する時間をとることで、自分の演奏を振り返るだけでなく、音の重なりによさや友達の演奏のよさに気付き、お互いを認め合うことや、合奏によって得た一体感や達成感を共有することにつなげたい。

4 題材の目標

- ・キーボードで「エーデルワイス」の各パートの旋律を演奏することができる。(知識及び技能)
- ・「エーデルワイス」のキーボード演奏において、友達の演奏に注目し、2つの旋律を同じリズムの中で演奏することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- ・友達との合奏や互いの演奏の鑑賞をとおして、多様な手段を用いて自分の目標を振り返るとともに、感想を発表しようとするすることができる。(学びに向かう力、人間性等)

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・キーボードで「エーデルワイス」の各パートの旋律を演奏している。	・「エーデルワイス」のキーボード演奏において、友達の演奏に注目し、2つの旋律を同じリズムの中で演奏している。	・友達との合奏や演奏している様子の鑑賞をとおして、多様な手段を用いて自分の目標を振り返るとともに、感想を発表しようとしている。

6 指導計画 (全 11 時間)

次	学習内容	時	学習活動	評価規準			評価方法
				知・技	思・判・表	主	
1	・「エーデルワイス」を聴いて2つの旋律のハーモニーを感じよう。	1	・エーデルワイスの演奏を鑑賞する。 ・2つのメロディーが重なっていることを知る。	○			行動観察
2	・パートに分かれ、キーボードで「エーデルワイス」を演奏しよう。	2	・音名を聴いたり、鍵盤の指さしに合わせたりし、曲の前半 16 小節までを弾く。	○	○		キーボード演奏
		3					
		4	・楽譜を見たり、楽譜の指さしや音名の言葉かけに合わせたりし、後半 16 小節を弾く。 ・曲を 32 小節とおして弾く。	○	○		キーボード演奏
5							
3	・発表会に向けて2つの旋律を合わせて演奏しよう。	6	・パートごとに伴奏に合わせてメロディーを弾く。	○	○		キーボード演奏
		7	・主旋律と副旋律のペアやグループと一緒に伴奏に合わせて弾く。	○	○		
		8	・全員で伴奏に合わせてメロディーを弾く。	○	○		
4	・「エーデルワイス」の発表会をしよう。	10	・2つのグループに分かれて発表会をする。 ・お互いのグループのよかったところを発表する。	○	○	○	キーボード演奏 発表
		11	・全員で合奏して発表会をする。 ・お互いのよかったところや感想を発表する。	○	○	○	キーボード演奏 発表

7 本時の目標

(1) 全体の目標

- ・楽譜を見たり、支援を受けたりして、キーボードで「エーデルワイス」の各パートを演奏することができる。 (知識及び技能)
- ・友達の演奏している音や、伴奏の音を聴いて、同じリズムの中で2つのパートを演奏することができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- ・自分たちの合奏している動画を見て、目標の振り返りや他者のよいところを発表しようとするすることができる。
(学びに向かう力、人間性等)

(2) 個人の目標

児童	目標 (〇…個別の指導計画に関する目標)	評価の観点	学習指導要領との関連
A 児	〇友達の演奏を聴いて、副旋律をキーボードで演奏することができる。	思考・判断・表現	音：小3段階
	・振り返りにおいて、他グループの演奏のよいところを4つの選択肢の中から選び、発表しようとするすることができる。	主体的に学習に取り組む態度	音：小2段階
B 児	〇友達の演奏を聴いて、楽譜を見ながら、主旋律をキーボードで演奏することができる。	思考・判断・表現	音：小3段階
	・振り返りにおいて、他グループの演奏のよいところを1項目発表しようとするすることができる。	主体的に学習に取り組む態度	音：小3段階
C 児	・楽譜を見ながら、一定のリズムで主旋律をキーボードで演奏することができる。	知識・技能	音：小3段階
	・振り返りにおいて、他グループの演奏のよいところや感想を2項目発表しようとするすることができる。	主体的に学習に取り組む態度	音：小3段階
D 児	〇楽譜を見ながら、一定のリズムで主旋律をキーボードで演奏することができる。	知識・技能	音：小2段階
	・振り返りにおいて、他グループの演奏のよいところを4つの選択肢の中から選び、「〇〇が良かったです」と発表しようとするすることができる。	主体的に学習に取り組む態度	音：小2段階
E 児	・言葉かけと鍵盤の指さしで、副旋律の正しい音を右手で演奏することができる。	知識・技能	音：小2段階
	〇振り返りにおいて、他グループの演奏のよいところを4つの選択肢の中から選び、「〇〇です」と発表しようとするすることができる。	主体的に学習に取り組む態度	音：小2段階
F 児	〇友達の演奏を聴いて、楽譜を見ながら、主旋律をキーボードで演奏することができる。	思考・判断・表現	音：小3段階
	・振り返りにおいて、教師の質問に答え、他グループの演奏のよいところを1項目発表しようとするすることができる。	主体的に学習に取り組む態度	音：小3段階
G 児	・言葉かけと鍵盤の指さしで、副旋律の正しい音をキーボードで演奏することができる。	知識・技能	音：小2段階
	・振り返りにおいて、他グループの演奏のよいところや感想を2項目発表しようとするすることができる。	主体的に学習に取り組む態度	音：小3段階
H 児	・友達の演奏を聴き、一定のリズムで主旋律をキーボードで演奏することができる。	思考・判断・表現	音：小3段階
	・振り返りにおいて、他グループの演奏のよいところを、「よかったところは〇〇です」と発表しようとするすることができる。	主体的に学習に取り組む態度	音：小3段階
I 児	・言葉かけと楽譜の指さしで、副旋律の正しい音をキーボードで演奏することができる。	知識・技能	音：小2段階
	・振り返りにおいて、他グループの演奏のよいところを1項目発表しようとするすることができる。	主体的に学習に取り組む態度	音：小3段階

8 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点		学習活動における評価規準	評価方法
		T 1	T 2		
1分	1. はじまりの挨拶をする。	・挨拶する人を呼名し、前で挨拶をするよう言葉かけで促す。	・姿勢を正すよう言葉かけをする。		
1分	2. 本時の活動内容を確認する。	・スケジュールを提示し、活動内容を口頭で説明する。	・スケジュールボードやT1に注目するよう、言葉かけや指さしで促す。		
4分	3. 本時の目標を確認する。	・個人の目標を、項目ごとに確認する。 ・呼名した後、全員で目標を読み上げるよう言葉かけで促す。 ・目標を黒板に提示する。	・モニターに注目するよう言葉かけや指さしで促す。 ・呼名に対する返事をする事ができるよう言葉かけで促す。		
3分	4. 動画の歌詞や振り付けを見て、身振りをして歌う。 ①『世界中の子どもたち』	・起立してモニター前に移動するよう言葉かけをする。 ・モニターに動画を流し、注目するよう言葉かけで促す。 ・動画終了後は、着席するよう言葉かけをする。	・モニターに注目するよう、言葉かけや指さしで促す。 ・大きな声で歌ったり、曲に合わせて身振りをしたりすることができている場合は「その調子です」と称賛する。		
4分	5. 動画を見て『世界はあなたに笑いかけている』のダンスをする。	・起立してモニター前に移動するよう言葉かけをする。 ・モニターにダンスの見本動画を流す。 ・見本の動作を模倣できている場合は「その調子です」と称賛する。 ・動画終了後は着席するよう言葉かけをする。	・モニターに注目するよう、言葉かけや指さしで促す。 ・大きな動きで身体を動かすことや身体を上手く使って踊ることができている場合は「素晴らしいですね」と称賛する。		
7分	6. 『エーデルワイス』をキーボードで演奏する。 ・主旋律 【B、C、D、F、H】 ・副旋律 【A、E、G、I】	・メロディーの演奏を聴くことを口頭で伝える。 ・その後、パート練習し、グループでの発表を行うことを説明する。 ・椅子の向きを後ろに変えるよう全体に口頭で説明する。 ・G児やH児が椅子の向きを変えることが難しい場合は、言葉かけで移動を促す。	・演奏する曲に見通しがもてるよう、ピアノで主旋律と副旋律を弾く。 ・自発的に椅子の向きを変えることができている場合は「そうですね」と称賛する。		

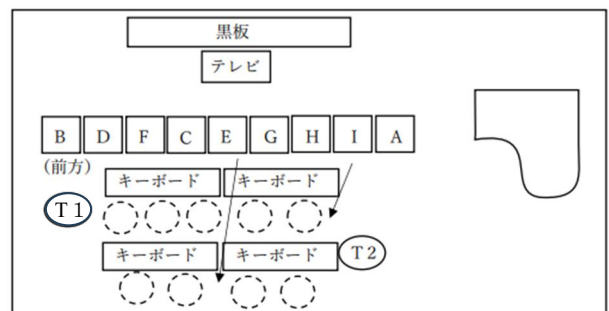
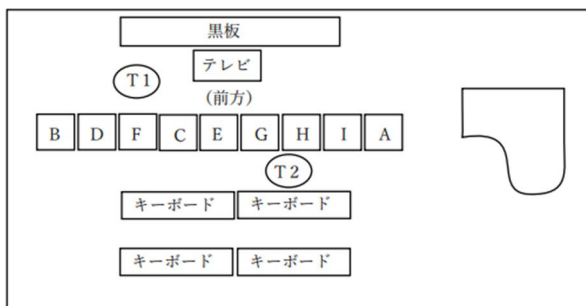
	<p>①各パートで練習する。(4分間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主旋律 【B、C、D、F、H】 ・副旋律 【A、E、G、I】 	<ul style="list-style-type: none"> ・パートごとに児童を呼名し、それぞれのキーボードの場所に移動するよう口頭で伝える。 ・B、H児が一定のリズムで正しい音を弾くことができている場合は、「素晴らしいですね」と称賛する。 ・C、D、F児に音名の言葉かけをしたり、手拍子などでリズムを取ったりし、一定のリズムで弾くことができるよう促す。 ・B、C、D、F、H児に楽譜の指さしや弾きはじめのタイミングの合図を行い、正しいタイミングで弾くことができるよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・副旋律のパートの児童に集まる場所を言葉かけし、移動するよう促す。 ・A児が一定のリズムで正しい音を弾くことができている場合は、「上手ですね」と称賛する。 ・E、G、I児に音名の言葉かけをしたり、楽譜や鍵盤の指さしをしたりして、正しい音で弾くことができるよう促す。 ・A、E、G、I児に休むタイミングや弾きはじめのタイミングを言葉かけで促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽譜を見ながら、一定のリズムで主旋律をキーボードで演奏している。(C、D) ・言葉かけと鍵盤の指さしで、副旋律の正しい音を右手で演奏している。(E) ・言葉かけと鍵盤の指さしで、副旋律の正しい音をキーボードで演奏している。(G) ・言葉かけと楽譜の指さしで、副旋律の正しい音をキーボードで演奏している。(I) 	<p>キーボードの演奏</p>
<p>5分</p>	<p>②グループごとに発表会をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aグループ 主旋律：B・D 副旋律：E・I ・Bグループ 主旋律：C・F・H 副旋律：A・G 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに前に出て発表することを口頭で説明し、ボードでグループを提示する。 ・演奏するグループの児童に移動するよう呼名や言葉かけを行う。 ・iPadで動画撮影する準備を行う。 ・演奏終了後、聴いている児童に拍手するよう言葉かけで促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の用意ができたことを確認し、ピアノで伴奏を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の演奏を聴いて、副旋律をキーボードで演奏している。(A) ・友達の演奏を聴いて、楽譜を見ながら、主旋律をキーボードで演奏している。(B、F) ・友達の演奏を聴き、一定のリズムで主旋律をキーボードで演奏している。(H) 	<p>キーボードの演奏</p>
<p>8分</p>	<p>7. 振り返りを行う。</p> <p>①合奏の動画を鑑賞し、グループごとに目標の振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板の方に椅子の向きを変えるよう口頭で説明する。 ・グループごとの合奏動画の鑑賞と振り返りについて口頭で説明する。 ・モニターに合奏している様子の動画を流す。 ・個人の目標について、達成できたかどうか、黒板にカード(できた・むずかしかった)を貼ることを口頭で説明する。 ・一人ずつ児童を呼名し、選択したカードを渡す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・G児やH児が椅子の向きを変えることが難しい場合は、言葉かけで移動を促す。 ・モニターや黒板に注目するよう、言葉かけや指さしで促す。 ・呼名後、黒板前に行くことが難しい場合は、言葉かけで移動を促す。 		

6分	<p>②他グループのよかったところを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B、D、E、I児 (Bグループのよいところ) ・A、C、F、G、H児 (Aグループのよいところ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・他グループのよいところを発表するよう口頭で伝える。 ・発表の見通しをもつことができるよう、発表の例を提示する。 ・A、D、E児には、選択肢(「おとがそろっていた」「きれいだった」「おとがあっていた」「じょうずだった」)を提示し、選択するよう言葉かけで促す。 ・B、C、F、G、H、I児には「○グループのどんなところがよかったですか」と質問し、よかったところを発表できるよう促す。 ・自ら発表することが難しい児童には、穴埋めにした発表カードを提示し、それを見て発表することができるよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前に出ることが難しい場合は、前に出るよう言葉かけで促す。 ・自発的に選択肢を選んだり、よかったところを発表したりすることができる場合は、「素晴らしいです」と称賛する。 ・発表者に注目したり、発表後に拍手したりするよう言葉かけで促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りにおいて、他グループの演奏のよいところを4つの選択肢の中から選び、発表しようとしている。(A) ・振り返りにおいて、他グループの演奏のよいところを1項目発表しようとしている。(B、I) ・振り返りにおいて、他グループの演奏のよいところや感想を2項目発表しようとしている。(C、G) ・振り返りにおいて、他グループの演奏のよいところを4つの選択肢の中から選び、「○○がよかったです」と発表しようとしている。(D) ・振り返りにおいて、他グループの演奏のよいところを4つの選択肢の中から選び、「○○です」と発表しようとしている。(E) ・振り返りにおいて、教師の質問に答え、他グループの演奏のよいところを1項目発表しようとしている。(F) ・振り返りにおいて、他グループの演奏のよいところを、「よかったところは○○です」と発表しようとしている。(H) 	発表
1分	8. 終わりの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶する人を呼名し、前で挨拶をするよう言葉かけで促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢を正すよう言葉かけをする。 		

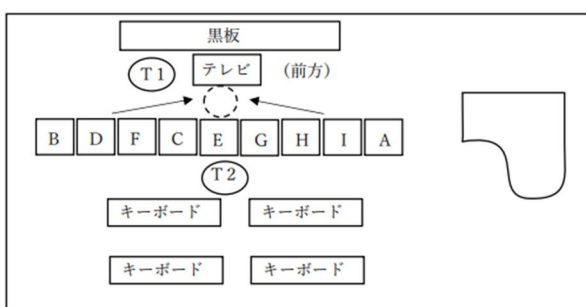
9 教室配置

・学習活動1～5、8

・学習活動6 (キーボード演奏時)



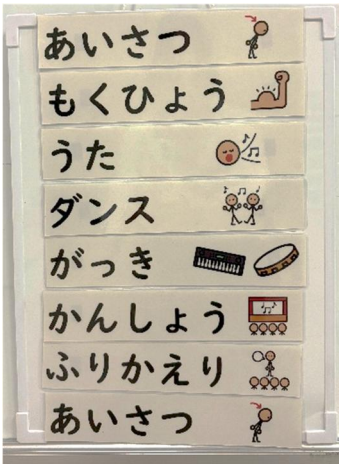
・学習活動7 (振り返り発表時)



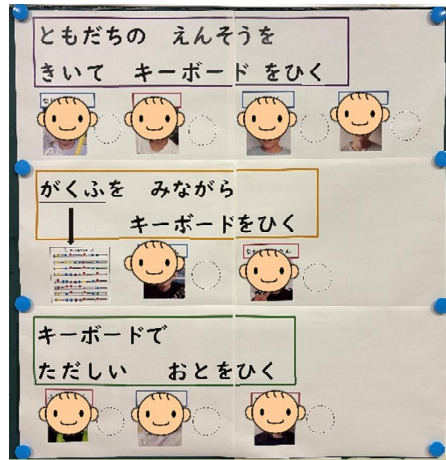
10 準備物

iPad、テレビ、スケジュールボード、楽譜（9枚）、目標シート（黒板掲示用）、ボード（グループ提示用）
 目標評価カード18枚（2種類×9人分）、発表用カード、キーボード（9台）、長机（4台）

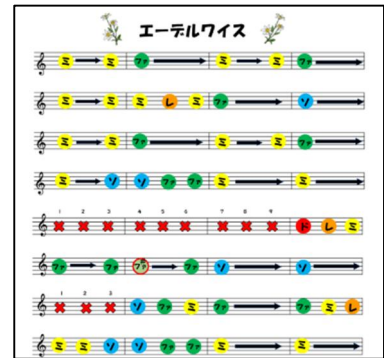
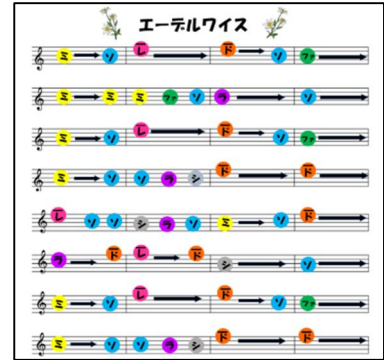
11 教材



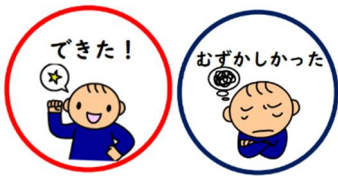
・スケジュールボード



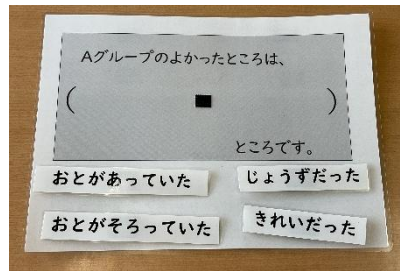
・目標シート



・楽譜（上：主旋律、下：副旋律）



・目標評価カード



・発表用カード